

## 【中区】平成 29 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議議事録

開催日時	平成 29 年 2 月 7 日 16 時 15 分から 17 時 00 分
場所	中区役所 6 階 特別会議室
出席者	<p>【座長】福島直子議員</p> <p>【議員：2 名】松本研議員、伊波俊之助議員</p> <p>【中区：26 名】三上章彦区長、安藤浩幸副区長、 岩田眞実福祉保健センター長、巻口徹福祉保健センター担当部長、 葛西隆中土木事務所長、林久人中消防署長 ほか関係職員</p>
議題	<p>1 平成 29 年度中区個性ある区づくり推進費予算（案）について</p> <p>2 その他</p>
発言の要旨	<p>伊波議員：みんなで子育て事業の「おでかけスポットマップの充実」にある「先輩ママ・パパ」とは、どのような人の意見を吸い上げるのか。</p> <p>松永こども家庭支援課長：子育て支援拠点「のんびりんこ」を利用している親子にインタビューを行い、ノウハウや口コミ情報などを頂く予定。これまでも「のんびりんこ」を通じてマップ作りにご協力を頂いている。</p> <p>伊波議員：中区は他区と違い中華街をはじめとして観光地が多く、また「のんびりんこ」以外でも親子が集まるグループが、独自に調査をしたりしているので、連携してみてもどうか。観光客などが家族で中区にきて、いやな気分になるのもいかがかと思うので、このような来街者の声も参考にしてほしい。民間も含めいろいろな声を聴いてもらいたい。</p> <p>松本議員：商店街のアニバーサリーツアーについて、周年事業としての盛り上げだけでなく、市民の皆さんにもっと商店街を知ってもらうための取組を継続すべき。29 年度は対前年で予算が減額となっており、30 年度はまた増やしてもいいと思うが、どうか。</p> <p>三上区長：経済局も、商店街振興については 1 つ 1 つに密着できる区が果たすべき役割が重要だと思っている。今回の予算もその観点で局に企画を挙げたところ、ぜひ中区でとの話で予算がついた。市が市内の商店街全てを細かく面倒見ることは難しいので、今後は、地元の商店街については区が責任をもって振興に取り組むスキームに徐々に変えていく必要があると思っている。</p> <p>松本議員：商店街の方々と話をすると、商店街がイベントを実施する際、告知のポスターを作って貼るが、雨風ですぐ汚くなる。大きな、撥水できるポスターを作りたいが、町内会の掲示板は満杯だし、貼る場所を確保できない。例えば商店街にデジタルサイネージを設置し、そこで PR するようなことができればと思うが、局はイベントにはお金を出しても広報にはお金が出せない、という声を聞く。</p> <p>区で商店街の魅力を発信できる取組の後押しができないものだろうかと考えている。局とも相談してほしい。</p>

山梨地域振興課長：すぐには難しいが経済局と検討してまいりたい。

松本議員：屋外広告物条例が緩和されているので、アーケードに大きな旗を出すなど、地域ごとにふさわしい方法があるはず。ぜひ検討してほしい。

伊波議員：民生委員 100 周年記念事業で製作する記念誌について、民生委員OBの方々のインタビュー、民生委員活動への思い出を入れてほしいが、可能か。これから 20 年、30 年と受け継いでいく記念誌なので、そういう思いを込めたい。

亀井福祉保健課長：内容はかなり固まってきている。昨年、OBを含めた民生委員の座談会を開いており、その内容が記念誌に入る。また、各地区から頂いたコメントも入る。

伊波議員：過去 10 年間ぐらいの歴代OBの名前とかは入れられないか。

亀井福祉保健課長：検討する。

伊波議員：最近、地域から餅つきでの衛生管理について、区からのアドバイスがほしいとの相談を受けることが多い。子どもの世代にも餅つきは伝えていきたい。新聞などで、餅つきをやることでのウィルスの問題等マイナスなイメージが報道されているが、情報が錯そうしていて地域でも混乱している。区連会などで話していただければと思う。

玉崎生活衛生課長：地域での餅つきなどのイベントに対する市のスタンスは、リスクを認識し細心の注意を払って実施してほしい、というもの。ただし、お年寄りや子供だけの施設の餅つきについては、なるべく自粛してもらうようにしている。

町内会へは、衛生管理に関する出前講座を、町内会館などでも行っているので、今後区連会等でPRに努めたい。また、1月末の保健活動推進員会議の際、注意喚起も行った。

伊波議員：ハローよこはまでも昨年度から商店街ブースが出店しているが、一層の商店街活性化に取り組んでほしい。商店街は、1つ1つ抱えている問題が違う。区として地域ごとに、商店街重点取組項目といったものは作れないか。広報よこはまなか区版でも商店街特集の記事を書いてもらっていると思うが、地域の商店街として何が課題であるか向き合って欲しい。

山梨課長：地域によって問題は違うと思うが、経済局との連携事業の中で、商店街と連携していくので、そのなかで一緒に商店街の課題なども探っていきたい。

福島議員：区局連携促進事業の放課後学習支援について、国際局とも連携するとあるが、どのような部分が広がるのか。

富澤こども家庭支援課担当課長：これまで教育委員会と一緒にやってきたが、外国籍の子どもへの対応については、多文化の視点も必要となるため、国際局も参加して取り組んでいく予定。

福島議員：中区だけか。他の区はないのか。

富澤課長：中区と南区が実施する。

福島議員：中学校でのスタントマンによる交通安全教室は、全中学校で実施するのか。

山梨課長：局予算なので、もらえる予算の制約上、28年度は港中学校1校のみ。29年度も1校のみとなる。

福島議員：寿地区保健事業対策について、29年度予算では488千円減となっているが、寿地区の人口、支援を要する人の数などの状況はどうなっているか。

松迫生活支援課生活支援担当課長：寿地区の人口は約6,000人と減少傾向にあり、生活保護受給者がそのうちの約9割、これも人数は微減。健康福祉局の調査によると、65歳以上の高齢化率は約55%で毎年上昇という状況である。

福島議員：寿地区の、次のまちづくりをどうしていくのか、中心市街地なので、そういうアイデアをそろそろ区として練っていく必要がある時期に来ていると感じている。

福島議員：災害時ペット対策の中で、大鳥小学校のプロジェクトで行っているアンケートの概要を教えてほしい。

玉崎課長：拠点に避難してくるペットの数を推計するため、各戸配付で何の動物が何匹飼われているか、同行避難を希望したいかなどの調査を行っている。その結果を踏まえ、大鳥小拠点に入りきるのか、サテライトが必要なのかの検討を行う予定。

福島議員：調査用紙の配付は、全戸配布か、それともペットを飼っているお宅を回ってか。

玉崎課長：町内会加入の全世帯に、町内会の方が配布している。

福島議員：結果はいつごろわかるのか。

玉崎課長：まだ配布できていない町内会もある。3月末にはまとめた。